

2022年4月18日

## 10ポイントマストシステム競技の採点基準についての確認

(一社)日本ボクシング連盟  
審判部長 東 弘樹

審判執行部では競技の採点基準について再確認することで、審判員の採点技術の向上と平準化を図るため、下記のことを周知することといたしましたので、ご確認願います。

### 記

1. クオリティブローとは、ターゲットエリアへの体の重みを伴った打撃。または、肩の重みを伴った打撃。このいずれかである。
2. 競技規則どおりに、『1. クオリティブローの数』を一番に重視する。数が同じ場合は、『2. 技術・戦術』、『3. 積極性』で判断する。
3. 打撃が同じ数なら、『質(強さ)』を重視するが、3発のクオリティブローに対する1発の強いクオリティブローの場合は、3発のクオリティブローを評価すべきである。打撃の強さに関係なく、クオリティブローの多い選手の方がラウンドを支配していると言えるからである。
4. 『手打ちパンチ』と『クオリティブロー』の見極めが大事である。
5. 1ラウンド毎に選手の評価をリセットし、ラウンド毎に選手を評価するのが『10ポイントマストシステム』である。
6. 明らかに反則を伴う打撃はカウントしない。  
(例: プッシュ、ホールドしながらの打撃、ナックルパートで打っていない打撃、頭を下げながらの打撃等)  
※反則かどうか判らない場合は、カウントする。
7. ジャッジは、自分の見えていないパンチはカウントしてはならない。